

地域や地域の産業等への関心を高め理解を深める教育の推進 ～小中高等学校における郷土教育・キャリア教育～

1 現状

- 平成30年度3月の県立高等学校卒業生12,341人の進路状況は、大学等進学者が45.0%、専修学校が14.1%、各種学校等が4.6%、就職者が33.1%、それ以外が3.2%となっています。
- 就職者のうち県内企業への就職率は86.0%で、進学者のうち県内大学・短大への進学率は26.2%となっています。
- 三重労働局職業安定部の調べによると、県内事業所に就職した平成26年3月新規高等学校卒業生の卒業後3年以内の離職率は37.5%で、全国の離職率40.8%より3.3ポイント低くなっていますが、卒業後3年以内に4割近くが離職する状況が続いています。

2 地域や地域の産業等への関心を高め、理解を深める教育の推進

(1) 取組の方向

- 子どもたちの地域への愛着を育むために地域の良さや郷土の豊かな自然、歴史、文化、産業等を理解する取組を進めます。
- 子どもたちが県内に魅力のある職場や仕事があることを理解するとともに、自己と社会とのつながり、働くことや地域社会に参画することの意義について理解を深めることができるよう、各学校段階におけるキャリア教育の取組を進めます。
- 将来、地域で活躍できる力や意欲を育成するために、就業体験や職業人講話等をおして地域の産業や企業について知る機会を創出することで子どもたちの興味関心を喚起するとともに、地域と連携して地域活性化に参画する取組を行います。

(2) 郷土教育の取組

子どもたちの発達段階に応じて、子どもたちが身近な自然や文化などを理解し、地域への愛着が深まるよう、地域の特色に応じた体験活動などの取組を進めています。市町では独自の郷土教育資料を作成し、市町全体で取り組むところもあります。

①教材「三重の文化」

県教育委員会では、ふるさと三重の自然、文化、産業、先人の偉業などについて学び、さらに発展させるため、また、郷土愛や郷土への誇りを持ち、郷土の未来と国際社会における自己の生き方を考え、これからの社会をたくましく生き抜くために、中学生用教材「三重の文化」を作成しています。



②「ふるさと三重かるた」

県教育委員会では、子どもたちがかるたを使って楽しく遊ぶ中で、郷土三重について知り、郷土への愛情を高め、豊かな心が育まれることを期待し、三重県の特徴を表す題材をテーマとして取り上げた「ふるさと三重かるた」を作成しています。



○「ふるさと三重かるた」を活用している幼稚園等・小学校・中学校の割合 (平成29年度 郷土教育に係る調査)

	平成28年度	平成29年度
幼稚園等	92.4%	95.2%
小学校	94.6%	92.4%
中学校	75.6%	74.4%

※「ふるさとかるた大会」(平成29年1月13日(土))

目的：子どもたちが幼児期や小学生段階から郷土の伝統や文化にふれる機会を創出し、郷土を愛する心を育成する。

参加者数：合計29名(幼15名、公立小14名)

内容：幼稚園・保育園4歳児の部、5歳児の部、小学校1年生の部、2年生の部、小学校4・6年生の部に分かれ、それぞれ5～6人のグループに分かれ、かるた競技を行った。

③道徳学習用教材「三重県心のノート」

県教育委員会では、さまざまな分野の発展に尽くした人物や、自然、伝統と文化をテーマとして取り上げ、道徳学習用の教材として作成しています。

○「私たちの道徳」および「三重県心のノート」を年間を通じて計画的・継続的に活用している学校の割合

(平成29年度 道徳教育に係る調査)

	平成28年度	平成29年度
小学校	52.7%	81.6%
中学校	18.0%	57.7%



④「中学生からの提案・発信」コンテスト

中学生が地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、主体的に身のまわりの課題の解決に向けた力を養うため、平成25年度から、学校で、生徒が取り組んでいる事例や効果を上げた実践等について、生徒会、委員会等のグループ単位で提案・発信する「中学生からの提案・発信」コンテストを行っています。



- ・プレゼンテーションでは、グラフや画像、役割を決めて寸劇を交える等、それぞれの意見を明確に主張する工夫を行っています。
- ・発表者は、審査員からの質問に対して、緊張しながらも自分の思いや考えを、これまでの実践を踏まえつつ、堂々との的確に答えていました。
- ・今後も市町教育委員会等と連携し、「郷土三重」についての学習を深め、コミュニケーション能力や主体性、仲間とともに課題を解決する能力等を児童生徒に育成する取組を引き続き進めます。

⑤各市町の特色ある取組例

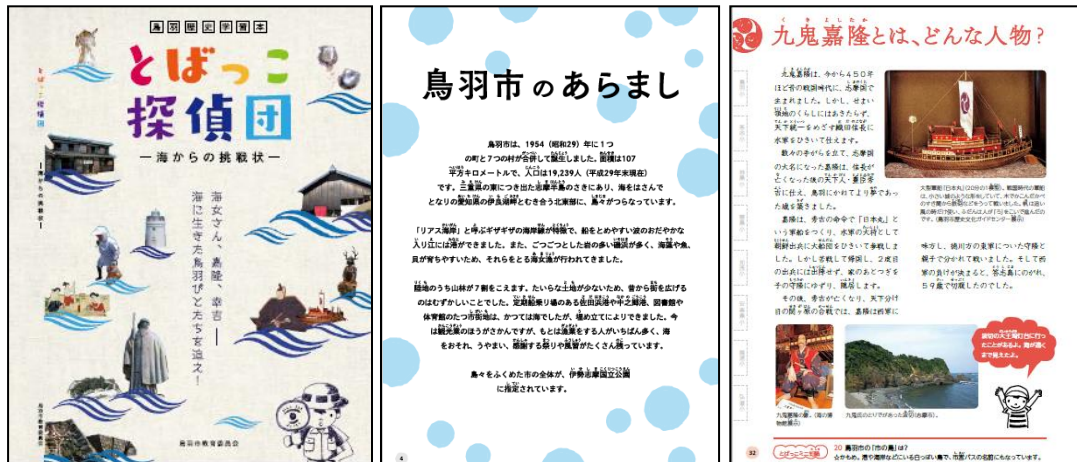
ア 「なばり学」の取組（名張市）

9年間を通して、名張の自然や歴史、伝統・文化、人、産業・観光などを学ぶことで、ふるさとへの愛着と、それらを引き継ぐ一人であるという意識を高めることを目的に、学習に使用する学習資料集を作成するほか、地域人材と連携した現地学習も取り入れた「なばり学」を始めています。平成30年度は小学校1年から4年で、31年度からは小学校5年から中学生で試行的に、生活科や総合的な学習の時間などを活用していきます。



イ 鳥羽歴史学習本「とばっこ探偵団」(鳥羽市)

鳥羽の子どもたちの郷土学習の推進や郷土愛の醸成を目的とし「とばっこ探偵団」を作成しています。平成30年度は小学校4年生、平成31年度は、小学校4、5年生を対象に学習し、平成32年度からは小学校4、5、6年生を対象に、郷土学習の教材として活用していきます。



ウ 『人と人をつなぐ』ふるさと教育の取組(南伊勢町)

「ふるさと南伊勢」の良さをより深く知り、ふるさとに誇りと希望が持てる子どもたちを育てるため、小中学校の発達段階に応じたカリキュラムを作成し、地域の資源(ひと・もの・こと)を生かした教育に取り組んでいます。



【地場産業の体験：水産学級(カサゴの放流)】

エ 「郷土の偉人を知る」(松阪市)

本居宣長、松浦武四郎などの優れた先人たちに学ぶことを通して、自らの夢を抱く子どもを育てるため、各小学校において、「郷土の偉人を知る」の冊子を活用し、小学校4年から6年生で、本居宣長、松浦武四郎、蒲生氏郷、三井高利についての学習などを進めています。



(3) 地域の産業や企業の理解につながる取組

子どもたちが地域の産業や企業を知り、将来、地域社会で活躍する意欲を持てるようにするために、地元企業等での就業体験や地域の職業人等による出前授業、行政や大学等と連携した地域の課題解決や商品開発等、地域の特色に応じた取組を行っています。

①職場体験・インターンシップの取組

県教育委員会では、中学校における職場体験、高等学校におけるインターンシップを推進しており、平成29年度の実施率は、中学校では98.7%、高等学校全日制100%となっています。

公立中学校及び義務教育学校における職場体験実施率

年度	H25	H26	H27	H28	H29
実施率	99.4%	98.1%	98.7%	97.5%	98.7%

※小規模校は隔年で実施しているため、100%とならない。

県立高等学校におけるインターンシップ実施状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29
全日制	100.0%	98.2%	100.0%	98.2%	100.0%
定時制	30.8%	36.4%	45.5%	27.3%	36.4%
通信制	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%

在学中にインターンシップを1回でも体験した生徒の人数

期間	全日制			定時制			通信制		
	参加人数	3年生	割合	参加人数	3,4年生	割合	参加人数	3,4年生	割合
H25	3,413	12,114	28.2%	112	719	15.6%	0	1,755	0.0%
H26	3,515	12,250	28.7%	98	914	10.7%	2	1,071	0.2%
H27	3,828	12,328	31.1%	145	929	15.6%	2	1,373	0.1%
H28	4,025	12,507	32.2%	150	929	16.1%	2	1,884	0.1%
H29	4,302	12,045	35.7%	169	878	19.2%	4	1,914	0.2%

②地域の職業人等を招いた取組

小・中・高等学校では、県内に魅力ある職場や仕事があることについて子どもたちの理解を促すために、地域の職業人等を招いた授業を行っています。

伊勢市の中学校では、総合的な学習の時間の中で、地域の職業人を10人程度招き、それぞれの仕事について1職業1教室、50分程度の形式で話を聞いたり、実習をしたりする機会を設けています。複数の職業人から話を聞くことで、地域産業や企業について理解を深めるきっかけとなっています。

③特色のあるキャリア教育の取組例

ア 子どもたちの社会的自立を目指したキャリア教育の創造

(伊賀市立柘植小学校)

柘植小学校では「生まれたまちを誇りに思い、ふるさとを大事にしようとする子ども」、「将来に夢を持ち、夢から逆算して今の自分をきたえようとする子ども」の育成をめざしており、低学年では家族や地域の身近にある仕事についての聞き取り、中学年では事業所訪問、高学年では一人一事業所での職場体験等、発達段階に応じて多様な人生モデル、職業モデルとの出会いを創出するとともに様々な体験活動を行っています。このように発達段階に応じた取組を行うことで、子どもたちは将来の夢の実現に向けた進路の在り方について考えを深めることができました。



【低学年：農家の方への聞き取り】



【中学年：放送局訪問】



【高学年：職場体験】

イ 地域資源を活用した系統的なキャリア教育の実践 (津市立美杉中学校)

特産物の商品知識を学び、生産者の仕事や郷土に対する思いを知ることで、郷土の素晴らしさを再認識し、自分の生き方を考えることをねらいとして、1年生で林業体験学習、2年生職場体験学習、地元の特産品の生産者への聴き取り学習、3年生で地元特産品販売会社開設・運営、修学旅行時における地元特産品の販売学習等を行っています。

平成29年度は「地元特産物販売会社 美処みすぎ」を設立し、東京の三重テラスにおいて美杉町や美杉町の特産品のPRをするとともに、販売活動を行いました。これらの活動後のアンケート結果では、美杉町に対して「前よりも好きになった、まあまあ好きになった」と肯定的な回答をした生徒の割合が、96%と地域の良さの再発見や、地域への愛着や誇りの醸成につながりました。



【1年生：林業体験】



【2年生：生産者への聞き取り】



【3年生：東京での販売体験学習】

ウ 日本版デュアルシステム (桑名工業高等学校)

2、3年次の希望者を対象に、週1回特定曜日に地域の企業で実習を行っています。年間を通して実習を行うことで、企業の1年間の流れを知ることができ、より就職した状態に近い体験となっています。体験中は保護者が見学する機会を設けており、保護者の企業理解にもつながっています。

参加生徒は、企業の担当者から様々な経験の場を与えられ、仕事の面白さや奥深さ、チャレンジすることの大切さ等、学校生活では味わうことのできない

経験をすることができました。また、企業の持つ技術・技能を学ぶことで、専門教科だけでなく普通教科に対する学習意欲が向上するとともに、時間を守ることや挨拶等の基本的なことが信頼につながるということを理解できるようになりました。



エ 合同進路説明会「みらいセミナー」（桑名北高等学校）

キャリア教育の一環として、高校2、3年生を対象に実施しているもので、平成30年度は133団体（事業所50、官公庁3、大学16、短大12、専門学校等52）の参加がありました。地域の様々な事業所や職業があることを知り、自分の適性や社会の中での役割を考えるとともに、進学希望者については、未来の職業をイメージすることで、大学卒業後の就職を意識した進路選択を考えるきっかけとしています。

参加した生徒からは、「将来就きたい職業の幅が広がった」「三重にも魅力的な会社があることがわかった」「仕事の内容やしくみを詳しく聞いて良かった。職業選択をするときに生かしたい」等の感想にあるように、複数の事業所等の話を聞くことで、事業所や仕事についての理解が深まりました。



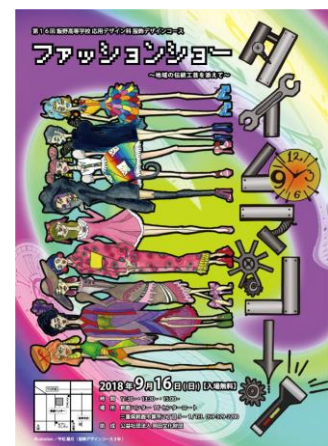
【「みらいセミナー」の様子】

オ 地域の伝統工芸を現代ファッションに生かす（飯野高等学校）

応用デザイン科ファッションデザインコースでは、伝統工芸である伊勢型紙を現代ファッションに取り入れることで伝統文化の良さを再発見することや地域とのつながりが深まることを目的に実施しています。

地域の伝統工芸である伊勢型紙の歴史を理解するとともに、伊勢型紙の技法を習得し、伊勢型紙を用いた布地を使ってドレスを制作しています。制作したドレスは、地元のショッピングモールでファッションショーを行い、披露しています。

平成30年度の卒業制作では、自分たちで染色した布を使って忍者の衣装をデザインする予定です。



【ファッションショー案内チラシ】

④地域の魅力ある産業や企業を知る機会の創出

県教育委員会では、地域に魅力ある産業や企業があることについて児童生徒の理解を深めることを目的とし、平成28年度から県内の9商工会議所（桑名、鈴鹿、津、松阪、伊勢、鳥羽、上野、尾鷲、熊野）と連携して取り組んでいます。

平成29年度は、地域の産業や企業を知るためのバスツアーや地域産業に携わる人との意見交換会、地域の企業でのインターンシップ等を実施しました。

地域の経済団体と連携することで、地域の特性を生かした取組を行うことができました。また、インターンシップ等をとおして、生徒が働くことの意味や厳しさ、やりがいを実感することで、自らの将来について考え、進路実現に向けた行動を始めるきっかけとなりました。

<特徴的な地域の取組例>

- ・観光関連事業所と鳥羽高生の意見交換会及び事業所見学（鳥羽商工会議所）
- ・名張高校、あけぼの学園高校、伊賀白鳳高校を対象としたインターンシップ及び受入事業所と学校とのインターンシップに係る意見交換会（上野商工会議所）
- ・小学生を対象とした地域の特産品・那智黒石について学ぶ体験ツアー（熊野商工会議所）



【鳥羽 CCI：事業所訪問】



【上野 CCI：意見交換会】



【熊野 CCI：那智黒石加工見学】

（４）地域活性化の取組

高校生が地域活性化や課題解決に取り組むことで、地域をより深く理解し、地域の一員として主体的に行動できる力や意欲を身に付けられるよう、地域の事業所、行政、大学等と連携し、商品開発や課題解決学習に取り組んでいます。

①伝統作物を用いた新商品開発と6次産業に関わる学習（四日市農芸高等学校）

地域の伝統作物・真菰（まこも）の栽培、加工、販売をとおして、食に対する興味関心の向上を図り、6次産業の知識を深めるとともに、新商品開発をすることによって地域貢献することを目的に実施しています。平成29年度は、収穫した真菰をレトルトカレーに加工し、6次産業の仕組みを学びながら実践するとともに新商品の開発やメディアの活用し、「真菰」の知名度を広める活動に取り組みました。活動後の生徒へアンケート調査では、真菰についての関心や第6次産業への知識を深めることができたという回答した割合は、3年生で100%という結果でした。



【レトルトカレー】



【メディアへの発信】

②津高キャリアプロジェクト（津高等学校）

平成23年度から三重大学の協力を得て実施しており、身近な「地域」をテーマに、地域の課題解決とその対応策について小グループのゼミ形式で研究しているものです。研究した内容については、関係団体等にプレゼンテーションを行い、自分たちの考えを提案しています。

平成25年度、28年度には鈴木知事に地域の活性化について提案を行っています。平成29年度は「若者に選ばれる街作り～新町商店街を事例に～」をテーマに津市の商店街の活性化に取り組み、津市長へ提案書を提出しました。

津高キャリアプロジェクトに参加していた生徒の中には、地域の活性化についてももっと勉強したいとの理由で三重大学に進学した者や、大学で県外には出ても、将来は三重に戻って働きたいと考える者も出てきています。



【津市長へのプレゼンの様子】



【津市長へ提言書を手渡す生徒】

③地域ビジネス創出プロジェクト（SBP）の取組（南伊勢高等学校南勢校舎）

SBPとは、ソーシャルビジネスプロジェクトの略で、ビジネスの手法により、地域に若者が定着し、将来にわたって地域を担うための仕組みを研究開発しようとする取組です。地域の良さを広く発信していくために商品開発やイベントの実施運営を行い、様々な人と交流する中で地域への愛着や社会性等を醸成しています。例えば、南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」を象ったたい焼き「たいみー焼き」の地域のイベント等での販売や、ふるさと教育の一環としての小学校への出前授業等、地域と密着した取組を行っています。また、平成29年度は「高校生地域創造サミット」で全国から集まった参加生徒全員におもてなしとして「たいみー焼き」を振る舞うとともに、三重県代表として地域活動の取組の発信を行いました。

SBPの取組をとおして、南伊勢町のために働きたいという意志を持った生徒も現れており、平成29年度に南伊勢町職員として採用され、現在、町の行政に携わっている者もいます。



【小学校への出前授業】



【高校生地域創造サミットでのプレゼンの様子】

④行政との連携 ～高校生アナウンサー～（松阪高等学校）

松阪市の行政チャンネル番組「アイウェーブまつさか」の認知度向上のために松阪市長からアナウンサーとして放送部が委嘱を受け、平成30年8月から松阪市と一緒に番組制作に取り組んでいます。



【松阪市長から委嘱状を受け取る生徒】



【収録の様子】

(5) 地域の状況に応じたキャリア教育の推進（キャリア教育推進地域連携会議）

県教育委員会では、平成26年度から県内9地域（桑名員弁・四日市・鈴鹿亀山・津・松阪・伊勢烏羽・志摩度会・伊賀・東紀州）において、小・中・高等学校の教職員、事業所及び関係団体等が一体となり、地域のキャリア教育や地域を担う人材育成の推進方策について意見交換を行っています。平成29年度は、9地域で延べ218人が参加しました。

各地域での意見交換を踏まえ、今後、地域の担い手育成及び職場定着の推進方策として、学校における地域の職業人による出前授業にかかる支援、児童生徒や教職員が地域産業の特色や魅力を知るための機会の創出、就業体験受入先の開拓の推進と就業体験の拡充、県立高等学校卒業生の職場定着支援に係る学校と事業所との連携推進」に注力していくこととしました。



【キャリア教育推進地域連携会議の様子】

(6) 高校生の就職支援及び新規高等学校卒業生の職場定着支援

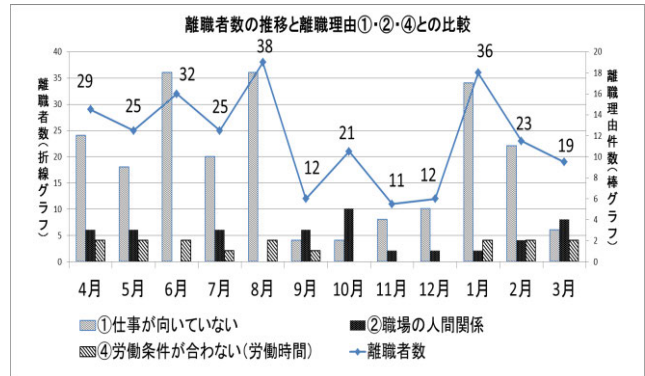
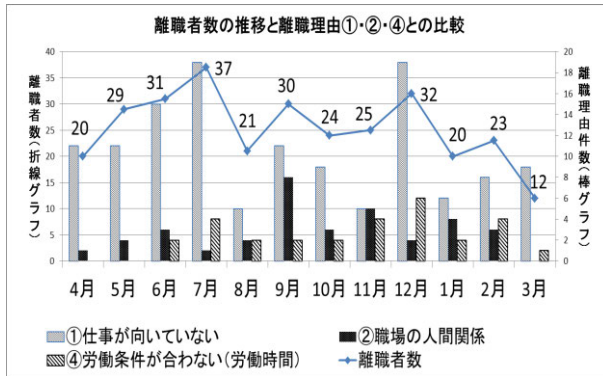
県教育委員会では、企業等で管理職や人事部門等の経験等を有する外部人材を職場定着サポーターとして任用し、学校及び生徒のニーズに応じた就職支援及び職場定着支援を行っています。

平成28年度、29年度の2カ年において、職場定着サポーター18人が配置されている学校の卒業生約2,000人の職場定着状況について企業等から聞き取り調査を行ったところ、平成28年3月卒業生で15.1%、平成29年3月卒業生で13.9%が卒業後1年以内に離職をしていることや4月から8月までの入社後間もない時期に多くの卒業生が離職していました。その離職理由として、「仕事が向いていない」、「職場の人間関係」等が上位を占めました。

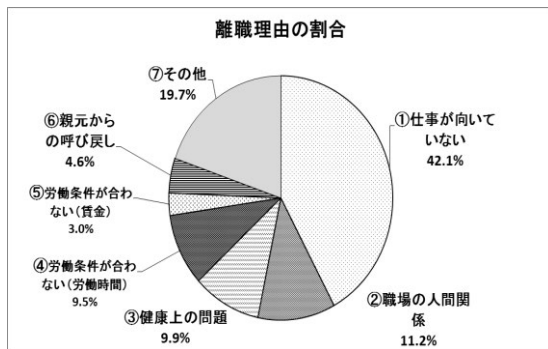
県教育委員会では、平成30年度、職場定着サポーター14人を県内35校に配置し、学校から職場へ円滑に移行できるよう、生徒へのキャリアカウンセリングや求人票の読み方等の就職に係るガイダンス、職場定着の課題等を踏まえた高校生の就職支援及び新規高等学校卒業生の就労状況の確認や職場定着に向けた橋渡しを行っていきます。

平成28年度・29年度における新規高等学校卒業生の離職状況

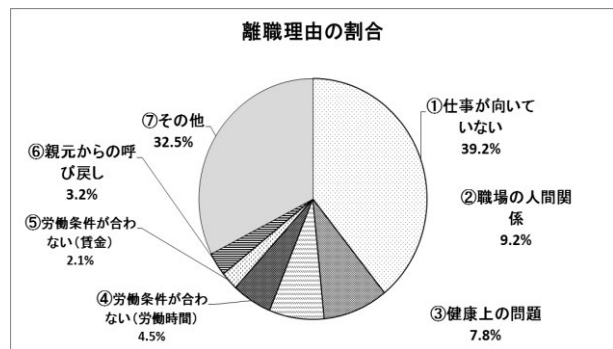
①離職時期の比較



②離職理由



【平成28年度3月卒業生】



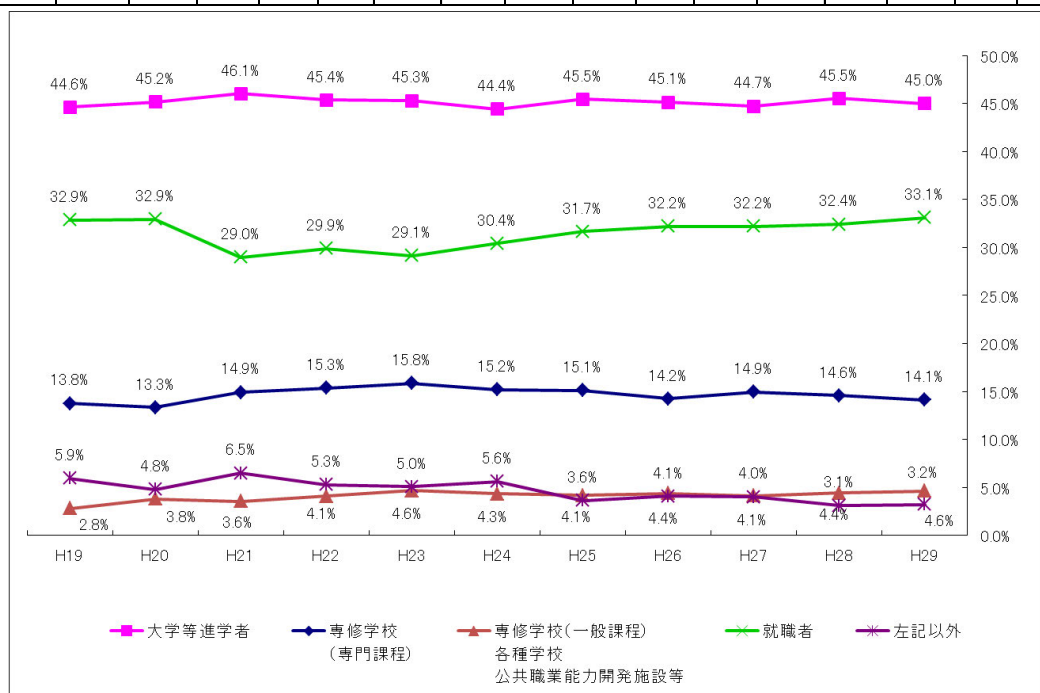
【平成29年度3月卒業生】

※職場定着サポーターが配置されている34校の卒業生約2,000人を対象とした聞き取り調査

<参考>

1 県立高等学校卒業者の進路状況（全日制・定時制・通信制H19～29）

	大学等進学者								専修学校 (専門課程)		専修学校 (一般課程) 各種学校 公共職業能力開 発施設等入学者		就職者		左記以外		卒業 者数
	大学		短大		その他		合計										
H29	4,874	39.5%	623	5.0%	53	0.4%	5,550	45.0%	1,740	14.1%	568	4.6%	4,090	33.1%	393	3.2%	12,341
H28	5,146	40.1%	643	5.0%	55	0.4%	5,844	45.5%	1,868	14.6%	563	4.4%	4,162	32.4%	398	3.1%	12,835
H27	4,904	38.9%	684	5.4%	59	0.5%	5,647	44.7%	1,885	14.9%	521	4.1%	4,063	32.2%	505	4.0%	12,621
H26	4,896	38.8%	748	5.9%	56	0.4%	5,700	45.1%	1,796	14.2%	550	4.4%	4,067	32.2%	512	4.1%	12,625
H25	4,937	39.4%	713	5.7%	52	0.4%	5,702	45.5%	1,895	15.1%	520	4.1%	3,970	31.7%	453	3.6%	12,540
H24	5,045	38.2%	767	5.8%	53	0.4%	5,865	44.4%	2,006	15.2%	572	4.3%	4,017	30.4%	737	5.6%	13,197
H23	5,021	39.1%	750	5.8%	54	0.4%	5,825	45.3%	2,035	15.8%	597	4.6%	3,746	29.1%	649	5.0%	12,852
H22	5,090	38.9%	782	6.0%	62	0.5%	5,934	45.4%	2,007	15.3%	534	4.1%	3,911	29.9%	690	5.3%	13,076
H21	5,138	39.3%	837	6.4%	52	0.4%	6,027	46.1%	1,952	14.9%	465	3.6%	3,794	29.0%	849	6.5%	13,087
H20	5,034	38.2%	851	6.5%	66	0.5%	5,951	45.2%	1,756	13.3%	496	3.8%	4,339	32.9%	627	4.8%	13,169
H19	5,150	37.7%	883	6.5%	58	0.4%	6,091	44.6%	1,878	13.8%	382	2.8%	4,486	32.9%	809	5.9%	13,646



2 県立高等学校卒業者の県内・県外就職率（全日制・定時制・通信制）

